

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 7月 29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770105332		
法人名	シャローム株式会社		
事業所名	シャローム大庭寺グループホームノア		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府堺市南区大庭寺249番地1		
自己評価作成日	平成25年7月29日	評価結果市町村受理日	平成26年2月21日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107
訪問調査日	平成25年7月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人らしさを尊重しありのままを受け入れ丁寧に寄り添うという理念の元、利用者の方の生きてこられた歴史を知り、尊敬の念を持ち接している。利用者様が落ち着き生活していただける空間と時間を心がけている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>認知症デイサービスを併設したグループホームは、落ち着いた雰囲気のある住宅内にあり、自治会に入会して、清掃活動にも地域の一員として利用者と参加して、役割を担いながら生活の継続ができるよう取り組んでいる。また、地域の祭りに「みこし」の立ち寄りも継続してもらい、利用者の楽しみとなっている。近隣学校や社寺の催しへの参加等を行い、地域とのつながりを持ちながら利用者が楽しく生活が継続できるように努めている。医療連携体制を整えており、内科医の往診を2週に1回受け健康・疾患管理を行ってもらっている。健康診断も年1回受けるように家族に相談し支援している。訪問看護ステーションとも連携を図り、いつでも相談できる体制を整えている。利用者の買い物の希望があれば体調に合わせて出かけている。ラジオ体操も毎日実施する時間を持ち、室内でも下肢筋力低下予防、気分転換を図っている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>フロア内に理念を掲げ職員に周知するとように声かけをおこなっている</p>	<p>法人理念を基に事業所でその人らしく、地域と関わりを持ちながら暮らし続けることができるように支援することを謳っている。フロア内に理念の掲示を行い、理念を意識してケアに向かえるようにしている。さらに、向上会議の中で日々のケアを行う中で理念を踏まえたケアの提供が行えているか振り返る機会を持ち理念の浸透を図っている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に入会している。地域の方が立ち寄っていただける施設としている。</p>	<p>自治会に入会して、自治会より合同で防災訓練の声かけがあり、現在実施に向け地域と協働で計画中である。また、地域の祭りのみこしの立ち寄りも継続してもらい、利用者の楽しみとなっている。近隣の清掃活動にも近隣住民と話し合いを行いながら分担を決め、地域の一員として利用者と共に役割を担いながら生活の継続ができるように取り組んでいる。利用者の希望を募り、近隣スーパーに買い物に出かけたり、近隣学校や社寺の催しへの参加等を行い地域とのつながりを持ちながら利用者が生活の継続が楽しく営めるように努めている。</p>	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>南区グループホームで行っている認知症啓発活動に事業所として参加させて頂いている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議の中で報告を行い、新しい取り組みなどについての意見交換の時間を設けている</p>	<p>南区の地域包括支援センターの職員、地域のグループホームの職員、大庭寺の自治会長、民生委員、利用者家族代表者の方を構成メンバーとして、2カ月に1回開催している。会議では資料配布やスライドで利用者の利用状況、事業所での活動状況などの報告を行っている。事故・ヒヤリハット報告や事業所での支援や取り組みの報告から課題を持って意見や提案を参加メンバーより出してもらいサービスや運営に反映させるようにしている。質疑応答の時間も設け地域の催しや行事の情報提供等も受け事業所での活動や地域との交流に活かしている。</p>	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>南区グループホーム連絡会にて現状を把握してもらっている</p>	<p>堺市介護事業所課の地域指定係とは事業所の申請や運営上の課題や問題、疑問など出向いて助言や指導を受けている。利用者がグループホームでの生活の継続できるように包括支援センター職員の方にも入ってもらい、市の担当窓口と共に連携を図り課題を解決している。南区グループホーム連絡会で市からの情報提供・情報交換を行うだけでなく、「ニコニコ一座」として職員が活動に参加し、地域に向けて認知症への理解を深めてもらえるように啓発活動に区と共に連携を図り地域貢献も行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>重大な危機が予測される事例について家族の同意を得て行っているが、利用者の状態により解除努力をしている</p>	<p>身体拘束・高齢者虐待についての資料を職員へ配布し、資料の中のチェックリスト等を用いて職員が日々行っているケアの中で身体拘束や虐待につながる行為や場面がないか振り返る機会を持っている。向上委員会の中でも身体拘束・虐待について日々のケアを中心に振り返る機会も持ち、身体拘束をしないケア・虐待防止の徹底を図っている。身体拘束のマニュアルの中で身体拘束をしないケアを行うための指針を明示し研修の中で浸透を図っている。職員は身体拘束をしないケアの徹底を図る為に見守りや目配りの徹底を図り拘束をしないケアの実践に取り組む姿勢がある。</p>	<p>身体拘束をしないケアを話し合い実践していることが分かるように検討記録を残していくことが望ましい。</p>

7	<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者は研修に参加し、また内部研修にておこなう</p>			
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>1名利用されている。南区包括と連携をとり必要な活用を行っている</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分な説明を行うようにしている</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置を行っている。職員は傾聴姿勢をとり、不満、苦情を見過ごさないようにしている</p>	<p>利用者家族の面会時には、職員から言葉かけを行いコミュニケーションを持つことで意見や要望・不満等を言いやすいように配慮している。「ノア通信」を発行していたが、現在発行が止まった状態である。これまでの通信から内容を充実して発行の継続ができるように現在検討中である。</p>	<p>通信の発行を行い家族に利用者の生活の状況や普段の状況を把握してもらい意見や要望を出してもらいやすいようにすることが望まれる。利用者・家族の意見や要望・不満や苦情が運営やサービスの質の向上に役立つことである為、事業所より積極的に聴取する取り組みの検討が望まれる。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>向上会議や日々の申し送りの中で、意見交換をし、反映させている</p>	<p>向上会議の中で強化月間として課題を持ち意見交換や意見聴取を行いサービスや運営に反映させるようにしている。施設長・管理者は職員の体調や表情等に目を配り、気になることがあれば声かけを行い職員の意見や悩みを聴取するようにしている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格習得の時などは助成金・祝い金制度がある</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設ない研修実施・外部研修の案内をしている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会へ参加し、情報の共有に努めている</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>契約前の見学と体験入所から家族様へ十分な説明を行うようにしている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前後に随時、要望の確認をしている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者・家族のニーズを読み取り適切なサービスで対応していきたい</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者に対しては常に傾聴姿勢を持ち、感情表現が自由にできるように努めている</p>		

19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者・家族の意見が共有できるように訪問時・または電話連絡を取り報告・相談できる関係を築いている</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人から要望により手紙・電話での連絡支援に努めている</p>	<p>知人や友人の面会の連絡があれば利用者・家族に確認を行い来訪してもらい、ゆっくりと面会できるように配慮している。併設のデイサービス利用者とも利用開始後にできた馴染みの関係が継続できるように、希望があれば食事やお茶を一緒にする機会を持っている。利用者と日々関わりを持つ中で、利用者の馴染みの場所や人との関係が持てるように家族に相談を行い、家族と共に協力して利用者が馴染みの場所や住み慣れた自宅へ出向くことができるようにも支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士のコミュニケーションの場を設け、良好な関係を築きあげることに努めている</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去された家族がスタッフや他の利用者へ面会にきてくださる</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の自由な意思を尊重し、利用者が気持ちを伝えやすいように配慮している</p>	<p>「自分史回想ノート」を使用して日々利用者と関わる中で話しや動き・態度等から利用者の思いや意向・希望をより詳細に把握することを現在検討している。現在殆どの方が自らの思いや意向など意思表示されている。自ら思いや意向を意思表示が難しくなられた方には、目の表情・しぐさなどから利用者の好き・嫌い、好嫌を汲み取り把握するようにしている。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居前の相談時に確認するとともに、入居後の会話や家族訪問時に確認している</p>	
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日のケース記録、サービス実施記録の記入と申し送りにて、現状の把握に把握に努めている</p>	
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>必要に応じてケアカンファレンスを開催し介護計画の見直しをしている。実施記録からモニタリングを実施し介護計画にいかしている</p>	<p>アセスメントを行い計画作成担当者がカンファレンスで職員の気づきや意見を取り入れ施設サービス計画書を作成している。計画実施表で計画のサービス内容に沿って実施し短期目標の項目に沿って実施の有無を明記している。日々計画に沿って支援した内容を記録として残している。</p> <p>施設サービス計画書のサービス内容に沿って実施の有無、実施内容、利用者の状態・状況・関わる中での観察内容などが記録として残るよう記録内容の充実を図る取り組みが望まれる。</p>



27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース岐路k、サービス実施記録の記入と申し送りにて、情報共有し、サービス計画の実施と見直しを行っている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>状況に合わせて他部門と連携をとり、柔軟に対応できるように努めている</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議などで、地域の情報を収集し、それを活かすように努めている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制をとっている</p>	<p>医療連携体制を整えており、協力医療機関からの内科医の往診を2週に1回受け健康・疾患管理を行ってもらっている。その他の科に受診が必要であれば往診医より紹介を受け他科の受診をするようにしている。健康診断も年1回受けられるように家族に相談し支援するようにしている。訪問看護ステーションとも連携を図り、いつでも相談できる体制整えている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護師と連携を取り支援している</p>		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働                  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>随時面会に行っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援                  重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に看取りの確認をしている。また利用者の身体状況に合わせ、家族の意向を確認すると共に医師に伝える。また話し合いの場合を設けるようにしている</p>	<p>契約時より看取りまで行う方針であることを説明し、利用者・家族の意向を確認し同意を得るようにしている。利用者の段階に応じて話し合いを行い医師とも連携を図り統一して支援するようにしている。事業所での看取りに対する指針を明文化しており研修の中で職員へ説明し統一して支援するように取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え                  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルの作成                  また利用者の状況に合わせて、個別の救急対応マニュアルを作成し、説明している</p>		
35	13	<p>○災害対策                  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署の指導の下、昼夜の体制を想定して、利用者・地域住民の参加で避難訓練を実施している</p>	<p>年2回の消防署の指導を受け昼夜想定で避難誘導訓練を行っている。現在地域住民と共に非常災害時訓練実施に向け自治会と共に協力し検討を行っている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>理念を周知し、職員は常に心がけ対応している</p>	<p>理念の中にもその人らしく生きていくことができる支援を盛り込んでおり、理念の浸透と共に利用者の尊厳やプライバシーを損ねないような支援・言葉かけを注意して行うように努めている。利用者との職員の一対一の支援を行う際には、コミュニケーションを十分に取るように心がけ、普段の会話の中では話せない内容や悩みを聴取し利用者の尊厳やプライバシーに配慮した対応を行っている。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者の意思を大切にし、自己決定できるような声かけ誘導をしている</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の自己決定を大切にしている</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>自己決定ができるように声かけをしている</p>	

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理の準備、配膳準備片付けをしていただいている</p>	<p>食材の搬入を受け事業所内で調理を行っているが、週1回は利用者から好みや食べたい物を聞き取り季節感等も考え献立を立て、買い物から事業所で行い利用者と共に食べる楽しみを持つようになっている。利用者の希望や体調等に合わせた調理・盛り付け・配膳などにも参加してもらえる場面を多く持つよう工夫している。男性利用者の方にも食事の一連の作業に参加しやすい場面を自然な形で持ち、食への楽しみを持てるように支援している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>各利用者の排泄、水分チェックシートを用い支援している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>利用者の状態に応じたケアを行っている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄シートを用い、リズムをつかみ、さりげない誘導・個々の状態に合わせて対応している</p>	<p>排泄シートを付けており利用者一人ひとりの排泄パターンやリズムを把握し、一人ひとりに合わせた誘導や声かけ・排泄道具・用具の使用、介助方法を工夫して気持ち良く排泄してもらえるように配慮している。</p>	

44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックシートを使用し、リズムを見つけ飲み物を工夫、運動を個別対応している</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本曜日を決め利用者の生活リズムを作るようにしているが、場合により本人の希望に対応できるようにしている</p>	<p>基本的な入浴曜日を決めていたが、利用者の状況により入浴してもらえるように支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>だいたいの就寝時間は設けているが、利用者のペースも大切にしている</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者カルテで確認、また副作用などは看護師にも確認し申し送りなどで、情報共有している</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者のできることを見つけ出し、役割を決め達成感を味わってもらっている</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の希望を聞き、外出計画をたて実施している</p>	<p>利用者の買い物の希望があれば個別・少人数で買い物に出かけたり、事業所内で使用する食材や調味料などの購入する際には、目的を持って外出できる機会と捉え、利用者の希望や体調に合わせて出かけるようにしている。ラジオ体操も毎日実施する時間をもち、室内でも下肢筋力低下予防、気分転換を図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出時の買い物にて利用者自身が選んで支払うよう誘導している</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望があれば、支援している</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾り、くつろげるソファを配置している</p>	<p>自然光が差し込む明るく広いフロアのテーブルに季節の花を飾り、家庭的で落ち着いた雰囲気のある共用空間となっている。利用者の状況に合わせてテーブルや椅子を配置してゆったりと過ごせる工夫がなされている。ソファを配置し少人数で過ごすことが出来るようにしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファの配置で対応している</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に使い慣れた家具を持ってきていただけるようにしている</p>	<p>利用前の生活との違いを感じさせないように、使い慣れた家具や趣味の品物を持ち込み、安心して過せる居室である。居室は静かで、清掃が行き届き、ゆったりとしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者のレベルに合わせている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない



65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない